

設問別調査結果 [小学校算数A:主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	10	ほぼ同程度	76.8
	量と測定	3	ほぼ同程度	56.2
	図形	3	ほぼ同程度	72.7
	数量関係	3	下回る	72.4
問題形式	選択式	5	ほぼ同程度	57.5
	短答式	14	ほぼ同程度	77.4
	記述式	0		

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・3.1ポイント以上
 ……+0.1ポイント～3.0ポイント
 -…ほぼ同程度
 ……-0.1ポイント～-3.0ポイント
 ●・・・3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			全国(公立)		札幌市	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1(1)	132-124を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	○					○		93.0	0.2		0.4
1(2)	52×41を計算する	整数の乗法の計算をすることができる	○					○		86.5	0.4		0.8
1(3)	6+0.5を計算する	整数と小数の加法の計算をすることができる	○					○		82.9	0.4		0.7
1(4)	68.4÷36を計算する	小数と整数の除法の計算をすることができる	○					○		76.2	4.1	●	6.1
1(5)	3+2×4を計算する	加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				○		○		70.9	0.5	●	0.8
1(6)	2÷3の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	○					○		73.7	4.6		5.6
2(1)	10を6個、1を8個、0.1を3個合わせた数を書く	十進位取り記数法について理解している	○					○		89.4	0.7		1.1
2(2)	7/10と等しい数を選ぶ	分数と小数の関係を理解している	○				○			82.2	0.5		0.7
3	小数の乗法及び除法の式で、計算の答えが被乗数、被除数より大きくなるものを選ぶ	小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解している	○				○			45.1	9.8	●	11.9
4(1)	12mのテープの長さは3mのテープの長さの何倍かを求める式と答えを書く	何倍かを求めるために除法が用いられることを理解している	○					○		83.0	1.4		2.0
4(2)	6mのテープの長さは12mのテープの長さの何倍かを求める式と答えを書く	何倍かを求めるために除法が用いられることを理解している	○					○		55.5	2.1		2.9
5	底辺8cm、高さ6cm、斜辺7cmの平行四辺形の面積を求める式と答えを書く	平行四辺形の面積の求め方を理解し、面積を求めることができる		○				○		85.2	1.7		2.8
6(1)	重さが約1kgであるものを選ぶ	重さについての感覚を身に付けている		○			○			65.7	0.8		1.1
6(2)	面積が約150cm ² であるものを選ぶ	面積についての感覚を身に付けている		○			○			17.7	1.0		1.4
7	円周率を求める式に当てはまる言葉を選ぶ	円周率の意味について理解している			○		○			76.8	1.0		1.4
8(1)	ひし形を1本の対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	ひし形、二等辺三角形の定義や性質について理解している			○			○		77.4	6.2		7.2
8(2)	ひし形を2本の対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	ひし形、直角三角形の定義や性質について理解している			○			○		64.1	11.3	●	14.1
9(1)	円グラフから「科学」の本の冊数の割合をよみとる	円グラフをよむことができる				○		○		91.4	2.0		2.6
9(2)	620冊の本の40%の冊数を求める式と答えを書く	百分率の意味について理解している				○		○		54.9	7.4	●	10.0

【設問分析】

1 四則計算

①は、整数、小数の計算を正しくすることができるかどうか、また、四則の混合した計算が正しくできるかどうか、除法の結果を分数で表すことができるかどうかを見るものであり、整数の計算が2問、小数の計算が2問、加法と乗法の混合した計算、商を分数で表す計算が1問、が1問の計6つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・繰り下がりのある3位数同士の減法の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・2位数同士の整数の乗法の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（3）】

- ・整数と小数の加法「（整数）＋（小数）」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（4）】

- ・小数と整数の除法「（小数）÷（整数）」の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問（5）】

- ・加法と乗法の混合した整数の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問（6）】

- ・整数同士の除法の計算で、商を分数で表すことは、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における「四則計算」については、昨年度と同様、全国平均を下回っているものが多い。特に、小数の計算においては、整数同士の計算部分まで正しく計算できたものの、小数点の扱いを間違える誤答が多く見られたことから、計算の仕方について、問題場面や図と関係付けて理解を図ることや、計算の性質を生かして考えられるよう指導の充実を図ることが大切である。また、積や商を見積もる活動を積極的に取り入れ、計算の結果の妥当性を判断することができるようにする指導も大切である。

「数量関係」領域における「加法と乗法が混合した整数の計算（ $3 + 2 \times 4$ ）」では、先に乗法を行わず、式の左（ $3 + 2$ ）から順に計算するものが多く見られることから、乗除先行などの計算のきまりについて、具体的な場面と式を結び付けながら理解を深められるようにする指導が重要である。

計算は、様々な問題場面で活用するものであり、正しく計算できることが重要である。既習の内容と関連付けながら、数と計算の意味や仕組みについて学習する場を十分に保障するとともに、一人一人の学習状況に応じて十分習熟を図るようにしたい。

2 十進位取り記数法、分数と小数の関係

②は、十進位取り記数法や分数と小数の関係を理解しているかどうかを見る設問であり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・十進位取り記数法の理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・分数と小数の関係を理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における「十進位取り記数法」及び「分数と小数の関係」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。「分数と小数の関係」における誤答を見ると、 $7/10$ と等しい数を70と解答しているなど、小数や分数の大きさを整数との関係付けてとらえられていない状況が見られる。小数や分数の意味及び表し方について、実際に具体物を分けたり、テープ図や面積図などに表す活動などを通して、小数と分数、整数を関係付けながら理解を深めるなど、今後とも十分理解を図る指導の工夫が求められる。

3 乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係

③は、小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。

- ・ 小数の乗法及び除法の式で、計算の答えが被乗数、被除数より大きくなるものを選ぶ設問では、全国平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における「乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係」については、全国平均正答率と比較して、下回っている。また、全国と同様、正答率が低い状況である。積や商の大きさと乗数や除数との関係については、子ども自ら数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめたりしながら適切にとらえられるようにすることが大切である。

4 除法の意味（割合を求める場合）

④は、割合を求める場合の除法の意味について理解しているかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・ 12 mのテープの長さは3 mのテープの長さの何倍かを求める問題では、全国平均正答率を下回っている。

【設問（2）】

- ・ 6 mのテープの長さは12 mのテープの長さの何倍かを求める問題では、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における「除法の意味（割合を求める場合）」については、設問（1）が全国平均正答率を下回っており、設問（2）が全国平均正答率と比較して、やや下回っている。基準量よりも比較量の方が小さい場面で、何倍かを求めること（ $6 \div 12$ ）については、 $12 \div 6$ と解答しているものが多く見られた。今後、基準量、比較量、割合（倍）を数直線などに表す活動を通して、数量の関係をとらえられるようにする指導の工夫が求められる。

5 図形の面積

⑤は、基本的には平面図形の面積の求め方を理解しているかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。

- ・ 平行四辺形の面積を求める公式を理解し、面積を求める問題では、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。

「量と測定」領域における「図形の面積」については、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。誤答の状況を見ると、「（底辺の長さ）×（斜辺の長さ）」を計算しているものが見られた。平行四辺形の面積を求めることについては、昨年度に引き続き、課題が見られる。

いくつか長さの示された図形から、面積を求めるために必要な長さを自ら選び取って、面積を確実に求められるようにする指導の工夫が大切である。

6 量の大きさについての感覚

⑥は、量の大きさについての豊かな感覚を身に付けているかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・ 重さについての感覚を身に付けることについては、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・ 面積についての感覚を身に付けていることについては、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。

「量と測定」領域における「重さについての感覚を身に付けること」及び「面積についての感覚を

身に付けること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。今後、実際に様々な具体物の重さを測定したり、 100cm^2 になる様々な図形をかいたりする算数的活動を行なうなど、量を豊かにする指導の充実が求められる。

7 円周率の意味

- 【7】は、円周率の意味について理解しているかどうかを見るものであり、1つの大問で構成されている。
- ・円周の直径に対する割合が円周率であることを理解しているかどうかを見ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「図形」領域における「円周率の意味」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、作業的・体験的な算数的活動を通して、円周率が直径に対する割合であることを理解したり、問題解決に円周率を活用したりする指導の充実が重要である。

8 図形の定義や性質

【8】は、基本的な平面図形の定義や性質について理解しているかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・ひし形の四つの辺の長さが等しいことを基に、一本の対角線で分割したときにできる三角形を、二等辺三角形ととらえることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・ひし形の対角線が互いに垂直に交わることを基に、二本の対角線で分割したときにできる三角形を、直角三角形ととらえることについては、全国の平均正答率を下回っている。

「図形」領域における「ひし形の四つの辺の長さが等しいことを基に、一本の対角線で分割したときにできる三角形を、二等辺三角形ととらえること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。「ひし形の対角線が互いに垂直に交わることを基に、二本の対角線で分割したときにできる三角形を、直角三角形ととらえること」については、全国の平均正答率を下回っている。

今後、作業的・体験的な算数的活動を通して、図形を観察・構成する経験を積むことや、辺や対角線などに着目して、図形の定義や性質について説明する活動を行なうなどしながら、基本的な平面図形についての理解を一層深める指導の工夫が求められる。また、学習した用語については、確実に使えるように指導することが大切である。

9 円グラフと百分率

【9】は、円グラフを読むことや百分率の意味について理解しているかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・円グラフから、「科学」の本の冊数の割合を読み取ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・百分率の意味の理解については、全国の平均正答率を下回っている。

「数量関係」領域における「円グラフから、『科学』の本の冊数の割合を読み取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。「百分率の意味の理解」については、全国の平均正答率を下回っている。

割合については、0.4 や 40%などの数値の意味について、数直線を用いながら、基準量や比較量との関係でとらえることが重要である。また、日常生活の中で割合が用いられている場面を探して、その数値が何を意味しているのかを考えるなどの活動を通して、理解を深める指導の工夫が求められる。

設問別調査結果 [小学校算数B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	3	ほぼ同程度	65.2
	量と測定	3	ほぼ同程度	53.3
	図形	4	ほぼ同程度	61.2
	数量関係	7	ほぼ同程度	44.9
問題形式	選択式	5	ほぼ同程度	62.1
	短答式	3	ほぼ同程度	74.0
	記述式	5	ほぼ同程度	27.7

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・3.1ポイント以上
 ・・・・0.1ポイント～3.0ポイント
 ・・・・ほぼ同程度
 ・・・・0.1ポイント～3.0ポイント
 ●・・・3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			全国(公立)		札幌市	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1(1)	ドアを開け閉めすると、置いた物にドアが当たってしまう場所を正しく表している図を選ぶ	開け閉めするドアの動きが、円の一部分であることを見いだすことができる			○		○			84.9	1.2	◇	1.3
1(2)	どの2つの戸棚を選んで置いても、ドアを開け閉めすると、ドアが戸棚に当たってしまうわけを書く	情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述することができる	○						○	30.1	12.0	◆	13.2
2(1)	グラフからA町の1980年の農業生産額をよみとる	グラフから情報をよみとることができる	○			○		○		84.3	2.1	◇	2.8
2(2)	棒グラフと円グラフから、2000年の野菜の生産額を求めるために必要な情報を選ぶ	比較量を求めるために必要な基準量と割合を、グラフから選択することができる				○	○			58.4	3.1	◇	3.8
2(3)	米の生産額について、「割合が減っているから、生産額は減っている」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	他者の考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を記述することができる				○			○	17.3	1.9	◆	2.3
3(1)	三角形の各頂点を中心に円の一部分をかき、それらをあわせた面積を求める式を選ぶ	円の面積の求め方を基に、半円の面積の求め方を表す式をよみとることができる		○	○		○			57.8	2.5	◆	3.0
3(2)	長方形の各頂点を中心に円の一部分をかき、それらをあわせた面積が、三角形の場合の何倍になるかを答える	三角形から長方形に図形を変えて考える発展的な場面、面積の関係をとらえることができる		○	○			○		69.1	7.1	◆	8.3
3(3)	長方形と四角形について、各頂点を中心に円の一部分をかき、それらをあわせた面積の関係をとらえ、判断のわけを書く	図形を変えて考える発展的な場面で、面積の関係をとらえ、判断の理由を記述することができる		○	○				○	33.1	6.1	—	7.1
4(1)	5班編成の掃除当番表を基に、7週目の掃除当番表と同じになる週を選ぶ	掃除当番表から規則性をよみとることができる	○				○			81.2	4.2	◇	4.3
4(2)	教室の掃除をする週の求め方を基に、校庭の掃除をする週の求め方を書く	示された解決方法を理解し、その解決方法を用いて別の問題の解決方法を記述することができる				○			○	38.3	1.6	◆	2.2
5(1)	学年ごとの身長を表した表から、5年生から6年生までの身長の伸びを求め、棒グラフに表す	学年ごとの身長を表した表から身長の伸びを求め、その伸びを棒グラフに表すことができる				○		○		68.6	4.1	◇	5.3
5(2)	身長の変化を表す折れ線グラフの一部分と、身長の伸びを表す棒グラフの一部分を比べて、その違いを書く	グラフの特徴を基に2つのグラフが対応していないことをよみとり、違いを記述することができる				○			○	19.4	21.5	◇	23.6
5(3)	与えられた折れ線グラフが、誰の身長の変化を表したものかを考え、当てはまる人の身長の伸びを表している棒グラフを選ぶ	グラフの特徴を基にグラフの対応を考え、与えられたグラフが誰のものを判断することができる				○	○			28.0	11.2	◇	12.8

【設問別分析】

1 事象の観察と判断の根拠の説明(ドア)

①は、日常の事象を数理的にとらえ、事象を観察して図形を見出すことや、情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・開け閉めするドアの動きが、円の一部分であることを見出すことについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式

と言葉を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」領域における「開け閉めするドアの動きが、円の一部であることを見出すこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、身の回りの事象を観察して図形を見出すなど、日常の事象を数理的にとらえられるようにする指導の工夫が大切である。

「数と計算」領域における「与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。また、全国と同様、正答率が低い状況である。今後、問題を解決するために必要な条件を考慮し、与えられた情報を整理したり、選択したりして、より効率的な解決方法を考える指導の工夫が求められる。さらに、考える根拠を明確にして、式や言葉などを用いて説明したり、記述したりする指導の充実が重要である。

2 情報の選択と考え方の評価（農業）

②は、棒グラフや円グラフを基に、内容を読み取ること、目的に応じて情報を選択すること、示された考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて評価し、その理由を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

・グラフからA町の農業生産額を読み取ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（2）】

・野菜の生産額（比較量）を求めるために、農業生産額（基準量）と野菜の生産額の割合が必要であることを理解し、棒グラフと円グラフからこれらの情報を選択することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（3）】

・年間の米の生産額（比較量）の大小を判断するために、各年の農業生産額（基準量）と米の生産額の割合の両方を基にする必要があることを理解し、そのことを基に他者の考え方が正しいかどうかを判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」及び「数量関係」領域における「グラフからA町の農業生産額を読み取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、身の回りでのどのようなグラフが使われているのかを調べる活動を取り入れ、目的や用途に応じて様々なグラフが使われていることを知る機会を設けるなど、日常生活との関連を図る指導の工夫が必要である。

「数量関係」領域における「目的に応じて、棒グラフと円グラフから必要な情報を選択すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、全国と同様、低い状況となっている。今後、複数のグラフから必要な情報を選択して問題解決を図る指導の工夫が求められる。

「数量関係」領域における「示された考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて評価し、その理由を数学的に表現すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。誤答を見ると、理由を書けなかったり、基準量を考慮せずに割合の違いだけで、比較量の増減を判断したりしているものが多く見られた。今後、割合が同じでも基準量が異なれば比較量も異なる場面や割合が大きくなっても、基準量によっては、比較量が小さくなる場面などで複数の比較量を比べる活動を行うなど、指導の工夫が必要である。

3 発展的に考えること（図形の性質と面積）

③は、図形の性質と面積を関連付けて、円の面積の求め方を用いること、発展的な場面で図形の性質を基に面積の関係をとりえ、判断の理由を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

・円の面積の求め方を基に、半円の面積の求め方を表す式を読み取ることについては、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

【設問（2）】

・三角形から長方形に図形を変えて考える発展的な場面で、図形の性質を基に、面積の関係をとりえ

ることについては、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

【設問（３）】

- ・長方形から四角形に図形を変えて考える発展的な場面で、図形の性質を基に面積の関係をとらえ、判断の理由を言葉や式を用いて記述することについては、全国の平均正答率と同程度である。

「数量関係」と「量と測定」領域における「円の面積の求め方を基に、半円の面積の求め方を表す式を読み取ること」と「三角形から長方形に図形を変えて考える発展的な場面で、図形の性質を基に、面積の関係をとらえること」については、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。「長方形から四角形に図形を変えて考える発展的な場面で、図形の性質を基に面積の関係をとらえ、判断の理由を言葉や式を用いて記述すること」については、全国の平均正答率と同程度であるが、全国と同様、正答率は低い状況である。

設問（１）における誤答を見ると、円周の長さを求める式と混同して、円の面積の公式を正しく用いることができないものが、全国と同様、多く見られた。今後、円の面積や円周の長さを求める公式に関する知識の定着を図る指導の充実が求められる。

設問（２）においては、問題文や図に示された数値をそのまま解答する誤答が多く見られた。今後、図を用いて、問題解決を図る態度を伸ばす指導の工夫が求められる。

設問（３）は、記述式の設問であるが、結論と理由を明確に記述することが十分できていないものが多く見られた。今後、根拠を明らかにして自分の考えを説明するなどの活動を取り入れ、指導の工夫を図ることが重要である。

４ 解決方法の解釈と適用（掃除当番表）

④は、日常の事象を数理的にとらえ、事象から規則性を読み取ること、示された解決方法を解釈し、それを別の問題に適用した解決方法を数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、２つの設問により構成されている。

【設問（１）】

- ・掃除当番表から規則性を読み取ることについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（２）】

- ・示された解決方法を理解し、その解決方法を用いて別の問題の解決方法を考え、それを数や式、言葉を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における「掃除当番表から規則性を読み取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後とも、様々な日常の事象から規則性を読み取る活動を充実することが望まれる。

「数量関係」領域における「示された解決方法を理解し、その解決方法を用いて別の問題の解決方法を考え、それを数や式、言葉を用いて記述すること」については、全国の正答率と比較して、やや下回っている。また、全国の平均正答率も低い状況である。今後、問題解決において、他者の考え方を理解し、それを自分の言葉で説明したり、他者の考え方の工夫を話し合ったりするなど、解決方法を読み取る指導の充実を図ることが重要である。また、問題解決の方法を他の問題場面に適用して一般化を図る指導の充実も求められる。

５ 資料の数学的な解釈と関連付け（身長）

⑤は、表や折れ線グラフ、棒グラフを基に、表やグラフが表している内容を関連付けて読み取ることや、グラフの特徴を基に、折れ線グラフと棒グラフの対応を判断し、両者の違いを数学的に表現することができるかどうかを見るものであり、３つの設問により構成されている。

【設問（１）】

- ・学年ごとの身長を表した表から身長の伸びを求め、その伸びを棒グラフに表すことについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（２）】

- ・身長の変化を表す折れ線グラフと身長の伸びを表す棒グラフを見て、グラフの特徴を基にそれらが

対応していないことを読み取り、その違いを言葉や数を用いて記述することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（３）】

- ・身長の変化を表す折れ線グラフと身長の伸びを表す棒グラフについて、グラフの特徴を基にそれらの対応を考え、与えられた折れ線グラフが誰の身長の変化を表したものを判断することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数量関係」領域における「学年ごとの身長を表した表から身長の伸びを求め、その伸びを棒グラフに表すこと」と「身長の変化を表す折れ線グラフと身長の伸びを表す棒グラフを見て、グラフの特徴を基にそれらが対応していないことを読み取り、その違いを言葉や数を用いて記述すること」、また、「身長の変化を表す折れ線グラフと身長の伸びを表す棒グラフについて、グラフの特徴を基にそれらの対応を考え、与えられた折れ線グラフが誰の身長の変化を表したものを判断すること」については、いずれも全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、全国と同様、平均正答率が低い状況が見られる。

設問（１）では、誤答を見ると、身長の伸びを表から読み取ることはできているものの、それを正しく棒グラフに表すところでつまづいているものが多く見られた。今後、様々な目盛りのグラフについて、一目盛りの大きさに着目して、自分でグラフをかく活動を充実する指導の工夫が求められる。

設問（２）では、無解答率が全国と同様、高くなっている。誤答を見ると、２つのグラフのそれぞれについて説明できていないものが多く見られている。今後、グラフから分かることを、丁寧に読み取り、自分の言葉で説明し、友達の説明と比べながら修正していくような指導の工夫が重要である。

設問（３）では、誤答を見ると、棒グラフと折れ線グラフがそれぞれ何を表しているか把握できていないものが多く見られた。今後、目的に応じてグラフを使い分けるなどの活動を通じて、グラフが表す対象について理解を深める指導の工夫が重要である。

算数学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項 * 印の設問は、昨年度と同様の内容	選 択 肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きですか。 *	36.2	27.1	19.8	16.6
算数の勉強は大切だと思いますか。 *	68.1	22.3	6.4	2.9
算数の授業の内容はよく分かりますか。 *	40.4	34	17.9	7.4
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。 *	50	24.1	16.8	8.8
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。 *	39.7	33.9	19	7.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。 *	29.8	31.8	25.6	12.7
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 *	60.9	24.2	10.2	4.4
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	42.9	33	16.9	6.8
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	43.3	34.2	16.5	5.7
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	51.1	29.2	14.2	5.1

（単位は％）

< 設問分析 >

- 「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、63.3%となっており、全国平均を 2.1 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 62.5%と、同様の傾向が見られている。今後とも、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、90.4%となっており、全国平均を 1.3 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 91.4%と、同様の傾向が見られている。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫するなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行なうことが求められる。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.4%となっており、全国平均を 4 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 72.4%と、同様の傾向が見られている。今後とも、一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが重要である。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、74.1%となっており、全国平均を 3.1 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 73.3%と、同様の傾向が見られている。今後とも、既習を活用して新しい問題を解決することを大切に学習を充実することが大切である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、73.6%となっており、全国平均を 2.4 ポイント下回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 72.5%と、同様の傾向が見られている。今後とも、多様な考え方を試すなど、試行錯誤しながら問題解決する学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、85.1%となっており、全国平均を 2.3 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。本設問については、昨年度調査における 88.6%と比べると、肯定的に回答した割合が低くなっている。今後、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、75.9%となっており、全国平均を 1.1 ポイント下回っている。今後、より効

率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切にした学習の工夫が求められる。

- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、77.5%となっており、全国平均を 0.9 ポイント下回っている。今後、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見付けた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなど、授業を工夫することが求められる。
- 「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、80.3%となっており、全国平均を 1.1 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。今後とも、問題を見通しをもって筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、自分で問題を解決する力を高める指導の工夫が求められる。